

新しい船出に向けて

はじめに

東京ボランティア・市民活動センターの情報誌『ネットワーク』

(当初のタイトルは、『ボランティア・ネット・ワーク』)

1981年10月に創刊号を発行以来、

多くのボランティア・市民活動団体の皆様のご協力をいただきながら

毎月発行し続けてきました。

創刊当初、ボランティアや活動団体そして市民がつながり、

ネットワーキングすることを目指して

本誌の誌名を『ネットワーク』といたしました。

今日のボランティア・市民活動、NPO/NGOを巡るさまざまな動きのなか、

どのような内容がふさわしいのか、皆様のニーズに応えることができるか、

といったことを半年ほど検討してまいりました。

そして、この度、決意を新たに、この『ネットワーク』を

皆様にお届けしたいと考え、発行体制や誌面構成を

大幅にリニューアルして発行することにいたしました。

東京ボランティア・市民活動センター
所長 山崎美貴子



明治学院大学教授・副学長を経て、
現在、神奈川県立保健福祉大学保
健福祉学部長。1986年に東京
ボランティア・センター(現在の
東京ボランティア・市民活動セン
ター)所長に就任。
現在、内閣府国民生活審議会委員、
千代田区政策会議委員、「広がれボ
ランティアの輪」連絡会議副会長
等を務める。

克服すべき課題

『ネットワーク』のリニューアルにあたって、ボラ
ンティア・市民活動や当事者活動の分野で活躍され
ている方々を編集委員としてお迎えして、毎号の編
集や企画をご検討いただく「編集懇談会」を立ち上
げて、皆様から忌憚のないご意見をいただきました。

あわせて、ボランティア・市民活動団体の皆様への
アンケート調査を重ねながら、当初の『ネットワー
ク』が掲げてきた目標がどこまで到達できたのか、
そして今後、私たちは何を指さなければならぬ
のか、といった視点から評価を行ってまいりました。
こうしたプロセスをとおして、私たちは『ネット
ワーク』について、いくつかの課題を気づくに至り
ました。

第一に、ボランティア・市民活動に関する情報や、
活動を取り巻く課題などをお伝えする際、従来の紙
面では、その時期ごとに必要と思われる情報を私た
ち自身が選択してまいりましたが、その一方で読者
であるボランティア・市民活動団体の皆様といっし
よに紙面をつくるという機会に乏しく、結果として

的な双方方向の協働になり得ず、情報提供にとどま
っていたのではないかと、ということも明らかになりま
した。

一方的な情報提供に終始していたのではないかと、と
いう点が明らかになりました。また、ボランティア
・市民活動をすすめる方々の意見をご紹介する場
合にも、意見を持った方々自身が参画しながら、自
らの意見を発信する機会をつくるのが少なかつた
のではないかと、ともすると編集作業に追われるなか、
私どもの視点で意見をまとめてしまうことはなかつ
たか、というご指摘もいただきました。

こうしたご指摘を踏まえ、編集委員の皆様のご助
言をいただきながら編集や取材、調査のあり方など
を抜本的に見直すことといたしました。そして、新
しい『ネットワーク』において、次のような視点や
問題意識を基本に据えながら、皆様とともに次のよ
うな誌面を創造してまいりたいと考えております。

私たちがめざす、 新しい「ネットワーク」

「コミュニティ」に注目する

第二に、ある意見に対して異なる立場での意見が
存在するのは当然であり、本来ならばさまざまな立
場の意見を提案しあうことをとおして、ボランティ
ア・市民活動における双方方向の関係づくりをすす
めるべきところを、実際の紙面では、多面的な意見を
必ずしも十分にご紹介し切れず、ともすると限られ
た立場からの意見を紹介するにとどまっていたので
はないか、という点があげられました。

第一に、「コミュニティ」に徹底的にこだわる視点
をもつてまいりたいと思います。ここでいうコミュ
ニティとは、そこに住んでいる人びとによって構成
される場合と、居住しているかどうかを越えて、あ
る目的を共有してその目的を達成するために機能的
なコミュニティを形成する場合があります。

第三に、これまで、さまざまなボランティア・市
民活動をご紹介する機会を設けてまいりましたが、
そうした活動のプロセスに内在する問題や、活動者
自身の課題をつまびらかにしながら、それらを提示
して学びあうという姿勢が欠けていたのではない
か、というご指摘もいただきました。

大都市・東京には、多くの人びとが暮らし、働き、
学び、集うなか、ボランティア・市民活動も多様な
方々による関わりをとおしてさまざまな活動が誕生
したり、あるいは衰退することもあります。そこで、
こうした活動の蓄積により、果たしてコミュニティ
はどのように変化しているのか、あるいはコミュニ
ティのなかで今後、どのような課題が浮かび上がり、
そしてどのようなことが起きようとしているのか、
本誌を通して丹念に掘り起こしてみることが必要で
はないかと、考えております。

そして第四に、東京都内に限らず、海外の機関や
団体との交流をとおして他国の活動についても情報
提供や研修、協働企画事業などを推進してまいりま
したが、それらについても、かならずしも十分な展
望を持ち得ずに行うにとどまり、結果として、継続

ボランティア活動への参加者やNPO法人の認証



「たくさんの合いがボランティア」
～1981年、『ボランティア・ネット・ワーク』創刊～
1981年10月に創刊した『ボランティア・ネットワーク』。その表題は、「一人一人の活動を結び、グループをむすび、そして、推進団体をむすびあう一つの媒体になること」を願って名付けられた。第1号の特集は「ボランティアってなあに」。インタビューに応じたある高校生はこの質問にこう答えてくれた。「[かわいそうだ]とか「私たちとは違うんだ」という考えでボランティアをやるのではなく、同じ人間として、本当の意味での助け合い、励まし合い、理解し合い、協力し合い、楽しみ合いというたくさんの合いがボランティアだと私は思っています」